

会 議 録

1 会議名

令和7年度第9回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

・福島城に関することについて（公開）

3 開催日時

令和7年12月9日（火）午後6時30分から午後8時10分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委員： 磯田会長、田中（美）副会長、古澤副会長、青山委員、稲川委員、
■川委員、鴨井委員、柴山委員、関澤委員、関谷委員、田中（実）委員、
田中（由）委員、保坂委員、増田委員（欠席者2名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター 内藤所長、勝島副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【勝島副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【磯田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：増田委員、青山委員に依頼

議題【自主的な審議】福島城に関することについて、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

- ・資料「福島城に関する意見交換を受けて」「ワークショップ」に基づき説明

本日は、A、B、2つのグループに分かれてワークショップを行っていただく。進行は、Aグループは田中（美）副会長、Bグループは古澤副会長にお願いする。発表者は、各グループで決めていただきたい。意見交換終了後、各グループから発表していただき、全体で共有していきたい。

【磯田会長】

ワークショップに先立ち、地域協議会がなぜこの議論を行っているかの話をさせてもらいたいと思う。また、本日の議論のたたき台とするための私の私案を述べるので、それを踏まえて「それは違う。」「こういう考えもある。」というような形でワークショップでは意見を出していただければと思う。

- ・資料「福島城関連資料の有効活用と福島城を愛する会の今後について」に基づき説明

－ 意見交換 －

【磯田会長】

B班から発表をお願いします。

【増田委員】

福島城の地域にとっての価値、重要性ということで、大半は残していくべきだという意見だった。中には、あまり興味がない、認識がないという意見もあったが、歴史の資産として残していく必要があるだろうということだった。

自主的審議にあたってここまでかなり時間がかかっているのはなぜかとの意見もあったが、一定の結論を出して、一区切りつける必要があるのではないかとということであった。一区切りはつけるべきだが、それで全て忘れてしまうわけではなく、関心を持って見守っていく必要があるというニュアンスだった。

展示については、観てもらえるならどこでもよい、埋蔵文化財センター、佐渡汽船の展望室や、1階も使えるのではないかと意見があったが、結論としては、相手のあることなので、今決めてそのまま進められることではない、会長案の2つを念頭におきながら検討を進めていく必要があるだろうということになった。

誰がという点については、全員が福島城を愛する会がそのまま続けるのは難しいという認識だった。結論としては、会長が提案しているRMO組織となったが、以前、地域

協議会で魅力創造課から屋台会館での社会実験の話聞いたときに、最終的には新しいまちづくり組織ができることを期待しているとの話があった。そのときに、私は「新しい組織が自立するのは難しい。行政は支えてくれるのか。」という質問をしたところ、「支える。」という話だったので、社会実験の結果、まちづくり組織ができているのか状況を確認してはどうかという話があった。

また、上越市には歴史に造詣の深い人、興味を持っている人がたくさんいるので、その人たちにも活動に加わっていただくような呼びかけが必要ではないかとの話があった。

【磯田会長】

次にA班の発表をお願いします。

【保坂委員】

まず、福島城の地域にとっての価値と重要性とあったが、これに関しては、福島城から高田城へと移ったときの経緯が、今の祇園祭と関係しているということで、祇園祭の背景となっているという意味でも福島城は重要だと認識をした。

自主的審議を進めるかどうかは、おおむね今年度で一定の区切りをつけてはどうかという意見があった。

展示場所に関しては、現地を眺めることができる佐渡汽船ターミナルがいいのではないかなった。上から現地を眺めると、草ぼうぼうではみっともないので、草刈りをしたらどうか。草刈りをするにあたっては、誰が主体となるのかという話が出た。福島城を愛する会では荷が重いということなので、地元の方をお願いをしてはどうか。ただし、今まで愛する会の方たちがやっていたとおりのことを、地元の方をお願いするということとはできない。そこで、まず町内の方たちにアンケートを取ったらどうか。地元の方たちは何が負担なのか、福島城に関して皆さんどう思っているかなど、アンケートを取って、それを基に町内会にこういうことをやっていただきたいというお願いをしてはどうかという意見があった。

現地には立派な石碑があるが、草に覆われている。地元にはこんなにいいところがあるということを再認識していただいて、とにかく地元の方たちが積極的に動いて、それをバックアップするのが地域協議会ではないのだろうかという話になった。

【磯田会長】

A班、B班とも多くの議論が交わされた。これを少し掘り下げながら、今後向かっていく方向をある程度合意形成していきたいと思う。

福島城の地域にとっての価値、重要性については、興味がないという方もいらっしゃるし、もう少し深く言えば、まちづくりにそれがどういかされるのかと思う方もいらっしゃるかもしれないが、歴史と文化の継承や、次世代につなげていく教育という観点からしても、やはり重要ということは皆さん共通の認識が持てたのではないかな。

この福島城の議題については、長い間この協議会で議論してきているが、なかなか結論、方向性が見えてきていないのも事実である。そういう中では、今年度である程度の区切りなり方向性を出していきながら、その後は注視していく、あるいは次に誰がどう担っていくか、誰がどう伴走していくかというところに議論の先が見えて来たのではないかな。その中で地域協議会がどういう役割で、どういう活動をしていくのかということも、次回以降の自主的審議の議題になっていくのではないかな。

場所については、2つ案を提示させていただいたが、相手のあることという話もあった。どこかで絞る、こちら側で絞るというよりは、交渉していきながら、相談していきながら最適解を見つけていくという作業が今後必要になってくるかなと思う。実現可能性からすると、佐渡汽船のほうが高いような気がする。埋蔵文化財センターや市の通年観光計画に福島城を割り込ませるとするのは至難の技だと思う。そういう中では佐渡汽船が第1ターゲットになると思う。A班は佐渡汽船を候補に、B班は私の2案の両方を追うということだが、佐渡汽船のほうの可能性としては高いのではないかなというところで合意ができていると思う。

1番の課題は、誰が担っていくのかというところだが、A班では、地元町内、あるいは地元の人たちがもう少しやる気を出してくれないか、あるいは上手く巻きこんでいけるかなというような話があった。B班では、RMO的な組織の可能性のような話もしていただいた。地元はどこからどこまでが地元かと言われると、町内会等いろいろな単位があると思うが、直江津区は、直江津と五智を包括していて、福島城も直江津区である。直江津区に住む我々は、福島城のことも地元、五智のことも地元である。そういう認識を持っていかないと、これからいろいろな活動をしていく上では難しくなっていくのではないかなと思う。直江津の駅前に住んでいても、五智のことについては注力していきたいし、五智に住んでいる方々にとっても、直江津祇園祭等も含めて、「うちら、直江津の人間だよ。」という地元意識のようなものの醸成も必要になるのではないかなと聞いていて思った。

アンケートを取るといった話も出てきた。地域協議会としてアンケート調査や住民の

意向調査のようなことも可能である。いろいろな課題について住民の皆さんに直接問いかける、そういったことをしていきながら、地域協議会と住民との距離を詰めながら、まちづくりの活動を、全般的な直江津区のまちづくり活動を包括していくというのが地域協議会の役割になってくるのではないかと考えている。とはいえ、誰かがもう少し注力していかないと、協議会が会の伴走をすることと言っても、では具体的に、どのようなことを誰がどうしていくのかということになってくる中で、RMOのような組織を作っていくのか。市は今、RMOに関する講座を開いているが、組織を作ることを市で推し進めているわけではなくて、そういうものが住民側から立ち上がってくるような形が今求められている。町内会も疲弊してきている中で、例えば天王川のクリーン活動を私の団体でやっている。いろいろな町内にも声を掛けて参加いただいている。先ほどの草刈りからやったらどうかというのは、すごくいいアイデアだと思う。それを直江津区全体に声掛けしてやってみようというような動きでもいいと思う。地元町内に、「俺らにまた面倒くさいことばかり投げてくるな。」と言われたいような、私たちが汗を流す、あるいは直江津も、ほかの町内の人たちも、ほかの市民も汗を流すというような形で物事を進めていければいいのではないかと考えている。そういうところに向かっていけるように、次の会議、あるいはその次の会議中で、少しずつ福島城の自主的審議の時間を取っていただいて、1月、2月、3月と、あと3回しかないので、何かの審議の時間があっても、この自主的審議の時間は半分取ってもらい議論していく。その中で一応の方向性を作っていく、あるいは次の伴走団体の、ある程度の立ち上げぐらいまでいけるか、あるいは既存の市民団体がそこに注力していくのかというようなことも含めて、皆さんと議論できたらと思っている。

私の総括としては以上だが、意見はあるか。

【青山委員】

ジオラマ等の展示は佐渡汽船の場所でなければいけないのか。

【磯田会長】

それ以外でもかまわない。

【青山委員】

私は屋台会館のところを使ったほうがいいのではないと思う。

屋台会館は祇園祭とも関係があるし、祇園祭と福島城の歴史的なつながりという面からいい場所ではないかと思う。

【磯田会長】

場所については、皆さんいろいろな思いがあると思う。

移設のハードルが高くて、今の場所にずっと置きっぱなしということにならないように、実現可能性を考慮しながら、一番いい場所を見つけていきたい。

【田中（美）副会長】

A班で最後に出た話だが、楽しみたい、楽しいということがつながることではないかということで、あそこは桜もすごく綺麗だそうで、地域協議会のみんなで草取りをしながらお花見をして、古城城のことを話すのはとてもいいのではないかという意見も出た。

【磯田会長】

今の話は大変いいことだと思うし、何らかの形でやっている姿を見せていかないと、住民もついてきてくれないところがあると思う。

【鴨井委員】

2022年3月に古城小学校が廃校になって、次の3月までの1年間、管理が直江津小学校だった。それが終わったら学校の管理ではなくなった。古城小学校があったときは子どもがサッカーをやっていて、古城小学校のグラウンドでよく練習をしていたのだが、直江津小学校の管轄から外れたときにロープを張られて立入禁止になった。使いたかったし草ぼうぼうだったので、草刈りをするからと町内会に話をしたところ、立入禁止だから町内会も立入りできないという話を当時聞いた。だから町内会が草刈りというのは、違う話である。

【磯田会長】

草刈りというのは石碑のあるところの話で、そもそもあその場所は民間企業の敷地である。そのため、市から町内会への草刈り委託の範囲にも入っていなかった。それで福島城を愛する会の人たちが手弁当でやっていると聞いている。

旧古城小学校の活用について企業にサウンディング調査が行われたが、どのように活用されるにしても、石垣の周辺だけは普通に見学したり、案内できるような体制を作っていくことも必要ではないかと思っている。

先ほど言ったように、ほかの直江津の取組、海岸清掃や天王川の清掃など、地域学習の中でどういうものを次世代に伝えていくか、残していくかということも考えながら進めていけるような組織、本当はそういうことがRMOの使命だと思う。そのあたりも皆さんと共に勉強していければと思う。

本日はこれで閉会とする。

事務局、連絡事項はあるか。

【石崎係長】

- ・次回協議会：令和8年1月21日（水）午後6時30分から

【磯田会長】

ほかに意見はあるか。

【増田委員】

先ほど会長の話の中でRMOの話があったが、これはまちづくりに関わる非常に大切な組織だと思うので、私たち全員でRMOについて勉強会をやったらいいのではないかな。時間を取るの難しいかもしれないが、もう2回RMOに関係するセミナーがあるので、そのセミナーが終わった後に、時間を取っていただき協議会委員で勉強をしたらいいと思う。

【磯田会長】

皆さん、RMOとは何かと思われているかもしれない。

地域協議会は考える組織であるが、RMOは住民が主体となって形成する、地域の課題解決に向けて、協議だけでなく実行もする組織である。13区にはNPOであったり振興会という形で実行する組織があるが、15区には無いところが多い。実行する組織の1つの形としてRMOを目指していくのもいいのではないかとということで、今、連続して講座が開かれている。

私も一度その勉強会をした方がいいと思っている。どこかのタイミングで、勉強会を入れさせていただいてもよいか。

（委員同意）

ほかに意見を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。